

平成29年7月27日
 東部農林振興センター 雲南事務所 農業普及部

標 題	待望の飯南町野菜共同選果場が稼働開始。 ～メロンもトマトもパプリカも！みんな持ってこーい～
------------	--

(ダイジェスト)

飯南町野菜共同選果場が7月20日に起動式を行い、21日から本格稼働を開始しました。併せて、トマト、パプリカは飯南町ゆるキャラを図案に用いた新しい出荷箱も完成しました。今後も関係機関一体となり、飯南町の園芸販売額目標達成に向け全力で取り組みます。

飯南町では夏季が冷涼である地の利を生かし、施設園芸でメロン、トマト、パプリカの果菜類の3品目夏秋作型を推進しています。その中で問題となっていたのが収穫後の選果作業でした。

このたび、JAを事業実施主体に、新農林水産がんばる地域応援総合事業を活用し総工費5724万円で上記3品目に対応した共同選果施設が完成しました。この施設は最新鋭の機能を備えており、外観（形状、着色）、内部品質（糖度、熟度、内部傷害）を一体的に計測することが可能です。

7月20日には関係者による起動式が催され、飯南町長とJAしまね雲南地区本部長による選果機スイッチ点火が行われました。併せて飯南町ゆるキャラ「い～にゃん」を図案に用いたトマト、パプリカの新出荷箱のお披露目も行われました。式では選果施設施工業者代表から「今まで多数の選果場建設に携わってきたが、行政がこれほど手厚く支援を行った施設は見たことがない。本気度がひしひしと伝わってきた。今後もメンテナンス等バックアップに最大限の支援を行いたい。」と力強い言葉をいただきました。

翌21日から、メロン、トマトが待ち構えていたかのように大量に持ち込まれ選果場の本格稼働がスタートしました。職員もまだ作業に慣れない中、懸命に選果、箱詰め作業に追われ非常に活気溢れる状況でした。

雲南管内では第3期戦略プランで「産直の魅力アップと担い手支援一体となった地域園芸の再生・強化プロジェクト」として園芸振興に取り組んでいます。飯南町では5年後に園芸販売金額の倍増を目標としています。達成に向けJA、町、県（農業普及部）の3者が今後も密に連携を行い、共同選果場と農林業定住研修制度、リースハウス団地整備事業との「3本の矢」で、園芸の産地化を推進していくこととしています。



上：メロン選果の様子

下：飯南町ゆるキャラ「い～にゃん」を図案に用いた出荷箱